

黙示録20章：キリストの御国

聖書に出てくる神の国

1. 教会(霊的にキリストが支配。ローマ 14:17)
2. 天(神の御座があるところ。黙示 4 章など)
3. 新天新地(天のエルサレム。黙示録 21 章)
4. 千年王国 — キリストが再臨されて、地上で君臨される国

「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。(イザヤ 9:6-7)」

a) 正義と平和 b) 動物界(11:6-9) c) 環境の変化(51:3) d) 長寿(65:20) e) 健康(33:24)

1-3節：鎖に縛られる悪魔

「底知れぬ所」： 墮落した天使、悪霊が幽閉されているところ(黙示 9:1)。

「解き放さなければならない」： なぜ、一度縛った悪魔を再び解き放つ必要があるのか？

→ 自由意志 — 愛 — 悪魔 — 選択 の関係がある(創世記 2-3 章)

- a) 神は人をご自分に似せて造られた。機械や動物とは違い、自由意志を与えられた。
- b) 自由意志を働かせるためには、選択肢がなければいけない。
だから、エデンの園で神は、善悪の知識の木を置き、その実を食べてはならないと命じられた。
- c) その選択肢が魅力あるものでなければいけない。悪魔は、エバに魅力あるものとして誘惑した。
- d) たとえ魅力的であっても、それでも神の命令に従う選択をするとき、
その人は本当に神を愛していることが証明される。

「諸国の民」： ハルマゲドンの戦い(19:19-21)で生き残る者たちがいる。イエス様は、彼らを、ご自分を信じる者とそうでない者とに選り分けて、信じる者を神の国に招き入れる(マタイ 25:31-46)。この人たちとその子孫が、千年の終わりの時に悪魔の試みを受ける。

4-6節：第一の復活

「多くの座を見た」： 教会 「勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。(黙示 3:21)」

「首をはねられた人たち」： 大患難の時に殉教した聖徒たち

「第一の復活」： 第一の復活は、キリストがよみがえられてから始まり、再臨の後で終わる。

「しかし、おのおのにその(復活の)順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。(1コリント 15:23-24)」

注：第二の復活は、キリストを信じなかった者たちのものである(20:12)。

「第二の死」： 第一の死は肉体の死。第二の死は、神から離れ、永遠に地獄で苦しむところの死。

復活の希望

「イエスは言われた。『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるので。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。』(ヨハネ 11:25-26)」

1. 「わたしはよみがえりです、いのちです」キリストが復活された。
2. 「死んでも生きるので」肉体の復活。
3. 「決して死ぬことはありません」霊的な死はない。

死 = 離別

1. 意識が肉体から離れる時「肉体の死」
2. 意識が神から離れている時「霊的な死」 → 肉体は生きているが、霊的に死んでいる。
3. 死後に神から離れている時「永遠の死」

「キリストとともに王となる」：「イエス・キリストは私たちが愛して、その血によって私たちが罪から解放し、また、私たちが王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。(黙示 1:5-6)」
今、キリスト者は霊的な事柄について、教会のものを管理し奉仕している。けれどもキリストが世界の王となられる時、私たちが世界を管理するようになる。だから、今、私たちが神に任されているものをきちんと管理していくことが非常に大切。ルカ 19 章 12-27 節

「さて、最初の者が現われて言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、十ミナをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』(19:16-17)」

7-10節： 悪魔の滅亡

「彼らの数は海辺の砂のようである」： 完全な統治の中で、こんなに反逆する人が出てくる！

「愛された都」： エルサレムのこと。キリストの王座がそこにある(イザヤ 2:2-3 等)。

11-15節： 最後の審判

「大きな白い御座」： 神が人間の行ないを裁かれる日がある。

「地も天も逃げ去って」： 千年王国は今の天と地が回復する状態だが、それが全てなくなる。

「しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。(2ペテロ 3:10)」

「死んだ人々が立っている」： これが第二の復活。不信者が復活する。

「数々の書物」： 神は私たち行ないをすべて記録している本を持っておられる。

「いのちの書物」： 永遠の命を得ている人々が記録されている本。例：黙示 3:5、ルカ 10:17-20

「だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではありません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。(ルカ 10:20)」

「自分の行ないに応じて」： 神は、私たちが生まれてから行なった全ての事、思いの中で行なったこともみな覚えておられる。たった一つの罪でも、完全な神の前に立つことはできない。だから…

1) 私たちが行なうことができるのは、キリストを信じること。

「すると彼らはイエスに言った。『私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。』イエスは答えて言われた。『あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。』(ヨハネ 6:28-29)」

2) 聖霊が、私たちのすべての罪のためにキリストが死なれたことを示される。

「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。(ヨハネ 16:8-9)」

3) 聖霊が示されたことを拒めば、もはや罪の赦しは残っていない。

「だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、聖霊に逆らう冒瀆は赦されません。(マタイ 12:31)」

4) だから、最後の審判で尋ねられることは、「あなたは、わたしの子、イエス・キリストを信じたのか。」である。「まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。私たちは、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする。」、また、「主がその民をさばかれる。」と言われる方を知っています。生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。(ヘブル 10:29-31)」

「死もハデスも」:

1) 今、キリストを信じない者はみな「ハデス」というところに行く。ルカ 16:19-31

「その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふとところにラザロが見えた。(ルカ 16:23)」

2) そして最後の審判のために復活し、今度は永遠の苦しみの場所「ゲヘナ」に投げ込まれる。

まとめ: 全ての人はよみがえります。どの姿でよみがえりたいですか？

「このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。(ヨハネ 5:28-29)」